

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

| | | |
|----------------------------------|--|-----|
| 科目名 | ペットビジネス総合実践Ⅱ／販売・経営学 | |
| 担当教員の実務経験 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業内広報部において、マーケティングリサーチ・分析・企画・広告・宣伝活動ならびに広報広告物およびWEBページの制作の経験がある。 ・ 事務職において受付業務や銀行業務等の経験がある。 ・ 商品販売（ならびにアドバイザーとして）の経験がある。 ・ ペットショップにて実務経験がある。 ・ 動物看護師としての実務経験がある。 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 64コマ | 4単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | <p>マーケティング・販売学を応用し、ワークショップならびに学園祭の出店を計画する。利益追求、消費者心理、サービスから広告戦略など多方面から分析し、企画した“ビジネス”の成功を目指す。</p> <p>具体的な企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人としての基礎力と人間力をつける。「最終的な目的達成」のために必要なプロセスとプランニングに時間軸を敷き、実際のイベント企画・運営を通して顧客満足度からリスク管理までを体系的に学ぶ。</p> | |
| 授業の到達目標 | <p>① 多方面から顧客心理に寄り添った店舗企画ができる。</p> <p>② イベントの企画から運営までを実際に体験しノウハウを身につける。 グループワークで各自が役割に対する責務を果たすことによりチーム全体の力を発揮することができることを体得し、グループの中での個の在り方を認識する。自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し客観的評価ができる。</p> <p>ひとつのビジネスを成功させるためには、金銭的利益を出すという数字計算上のことでだけではなく、利益（満足）を生み出すことができる状態を作ることが最も重要である。以上のことから、コストの削減、価格の吊り上げで全てを解決するのではなく、顧客心理に寄り添うこと、客観的観点をもつこと、そして、ビジネスチームとして同じ目標に向かい工夫を凝らすことを重要視する。この科目を通して“経営者”としてそれらを十分に考慮したビジネス計画ができる力が身につくとともに、人間力の強化にもつながる。</p> | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 他で開催されている同様イベントにも興味をもってみる。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 前年度資料 | |
| 授業上の注意点 | 満足とリスク管理は妥協せずに追求すること。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| イベント（ビジネス）成功の定義、最高のパフォーマンスに必要な要素 | | 1 |
| チームのモチベーションを上げる要素と工夫 | | 1 |
| プランニングと運営について考える | | 1 |

| | | |
|---|-------|----|
| 店舗企画会議（内容、人材配置、予算） | 5 | |
| イベント企画会議（内容、人材配置、予算） | 5 | |
| 店舗企画※学園祭・ワークショップ（コンセプト、商品、POP制作、空間プロデュース） | 25 | |
| （制作・仕入れ／グループワーク） | | |
| （売上目標／経営面の改善） | | |
| （広報・宣伝活動） | | |
| （収支計算／棚卸） | | |
| イベント企画（昨年度からの改善点、イベント内容の検討） | 25 | |
| （運営シミュレーションと分析） | | |
| （グループミーティング） | | |
| （リスクマネジメント） | | |
| （制作・仕入れ／グループワーク） | | |
| （広報・宣伝活動） | | |
| 結果の分析（レポート） | 1 | |
| | 合計 | 64 |
| | 授業単位数 | 4 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|--|-------|
| 科目名 | ホリスティックケア | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 30コマ | ・ 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 自然癒力をたかめ、心身ともにケアする代替医療・統合医療を学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 東洋医学を理解する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習評価、実習簿の提出および出席率等により総合的に評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 全体実施時間外にも看護が必要となる場合があります。その場合に個別にカウントを行います。1コマ（90分）を3分割し実施する場合があります。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 自己判断せず指導者に指示を仰いでください。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 東洋医学基礎 | 5 |
| | ペットマッサージ、針 | 5 |
| | メディカルアロマ、 | 5 |
| | お灸、 | 2 |
| | 漢方 | 2 |
| | ホリスティックケア・カウンセラーレポート、認定試験 | 11 |
| | | |
| | 合計 | 30 |
| | 授業単位数 | 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|--|-----|
| 科目名 | 公衆衛生学Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 17コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 人獣共通感染症について病原体ごとに理解を深める。 | |
| 授業の到達目標 | 人獣共通感染症を学び、人の健康維持・増進や疾病予防への応用について理解 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 応用動物看護学②、動物の疾病と予防および回復、1級愛玩動物飼養管理士 | |
| 授業上の注意点 | 公衆衛生学Ⅰの「人獣共通感染症」を復習しておくこと。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 人獣共通感染症（各論） パストレラ症、レプトスピラ症、ブルセラ症、猫ひっかき病、サルモネラ感染症、カプノサイトファーガ症、コリネバクトリウム感染症、カンピロバクター症、Q熱、鳥クラミジア症、皮膚糸状菌症、クリプトコッカス症、スポロトリコーシス、狂犬病、インフルエンザ、SFTS、トキソプラズマ症、エキノコックス症、トキソカラ症、フィラリア症、瓜実条虫症、マンソン裂頭条虫、疥癬 | | 6 |
| 薬剤耐性菌 | | 1 |
| 1級愛玩動物飼養管理士試験対策、模擬試験 | | 10 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 17 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

| | | |
|----------------------------|--|------|
| 科目名 | 飼養管理実習Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | ① 動物病院にて実務の経験がある。 ② ペットショップにて生体管理の実務経験がある | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ | 1 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | <p>① 動物に対しての観察力を身につける。又、摂取カロリーや栄養バランス、安全な散歩のテクニックなどを学ぶ。健康管理面では投薬や保定などの技術の習得も目標とする。</p> <p>② 康管理、飼い主へのアドバイスに必要な知識の習得を目指す。</p> <p>③グループ作業の実施により、チームで働く上での心構えや協調性を養う。又、服装、及び時間厳守など社会人として最低限必要を守る意識を育てる。</p> | |
| 授業の到達目標 | 動物飼育実習Ⅰで身につけた知識や技術を更に向上できるよう、1年生に指導しながら飼育方法を考える。正しい知識や技術を伝授し、より良い飼育環境作りに務める。動物の命に責任を持つ。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 命は24時間365日。休日も当番があります（月1～2回）。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 少しでも異常が認められる場合は速やかに報告してください。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 情報の共有から質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 観察力アップから質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 自己評価から質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 入院管理を想定し質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す | | 2 |
| 動物飼育実習の総括 | | 1 |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

| | | |
|--------------|---|-----|
| 科目名 | 動物愛護活動Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 秋田県動物愛護推進協議会委員を務める | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 19コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 動物愛護活動に取り組む。 秋田県動物愛護推進計画を理解する。 | |
| 授業の到達目標 | 秋田県動物愛護フェスティバルにボランティアとして参加することにより、秋田県の取り組みならびに地域そのものと触れ合うことで、愛玩動物飼養管理士として行うべき普及啓発活動の意味とペット業界従事者に求められていることを理解する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 資料配布 | |
| 授業上の注意点 | | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 秋田県動物愛護推進計画を理解する | 2 |
| | いのちを繋ぐ取り組みについて理解する | |
| | 動物愛護フェスティバルについて理解する | |
| | 秋田県動物愛護フェスティバルについて概要を理解する | 4 |
| | 秋田県動物愛護フェスティバルでのボランティアを計画する | |
| | 犬猫保護団体について理解する | 10 |
| | 犬猫保護団体へのボランティアを行う（NPO法人いぬねこネットワーク秋田） | |
| | 秋田県動物愛護センターの見学実習 | 2 |
| | レポート | 1 |
| | 合計 | 19 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | | |
|--------------------|--|---|-----|
| 科目名 | 動物医療コミュニケーションⅡ | | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | | |
| 授業時間数・単位数 | 19コマ | ・ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | | |
| 授業の概要 | 日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションについてロールプレイング形式で学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 円滑なコミュニケーションをとることができる。 | | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | | |
| 準備学習・時間外学習 | | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学① | | |
| 授業上の注意点 | | | |
| 授業計画（内容） | | | |
| | | | コマ数 |
| 飼い主さんとのコミュニケーション講座 | | | 3 |
| 病院接遇トレーニング | | | 6 |
| 院内トレーニング | | | 10 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 合計 | | 19 |
| | 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|--|------------|
| 科目名 | 動物医療関連法規 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。 | |
| 授業の到達目標 | 人と動物の調和に関わることを学ぶ | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 1級愛玩動物飼養管理士テキスト、応用動物看護学② | |
| 授業上の注意点 | 2級愛玩動物飼養管理士にて学習済みの内容は各自復習しておくこと。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 法の基礎知識（法源、実定法の分類、「民事」「刑事」「行政」、刑の種類） | 2 |
| | 各分野・領域に関する法規（各法規が対象とする動物種、動物に関わる法規、動物が関与するその他の法規） | 2 |
| | 獣医事行政法規（愛玩動物看護師法、獣医師法、獣医療法） | 2 |
| | 家畜衛生行政法規（家畜伝染病予防法、ペットフード安全法、その他の関連する法律） | 2 |
| | 公衆衛生行政法規（感染症法、狂犬病予防法、身体障害者補助犬法、その他の関連する法律） | 2 |
| | 薬事行政法規（薬機法、その他の関連する法律） | 2 |
| | 環境行政関連法規（動物愛護管理法、外来生物法、種の保存法、鳥獣保護管理法、ワシントン条約、ラムサール条約、廃棄物処理法） | 2 |
| | 演習問題 | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|--|-----|
| 科目名 | 動物外科看護学 | |
| 担当教員の実務経験 | 獣医師、動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 36コマ | 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを体系的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を修得 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学①、動物看護実習テキスト | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 手術チームでの動物看護師の役割と準備 1. 手術チームにおける動物看護師の役割 2. 手術室に入るとき 3. 手指の消毒法 4. 手の拭き方 5. 手術着（ガウン）・手術用手袋（グローブ）の装着法 演習問題 | | 4 |
| 術前準備 1. 手術準備室と手術室の準備 2. 動物の術前準備 3. 麻酔の準備 4. 手術時のポジショニング 5. 消毒の準備 6. 術野の消毒法 7. 滅菌布（ドレープ）の装着 演習問題 | | 4 |
| 麻酔・鎮静処置 1. 麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割 2. 麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスク 3. 麻酔あるいは鎮静処置時に特有の問診 4. 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査 5. 注射麻酔・鎮静に関わる手技（局所麻酔を含む） 6. 吸入麻酔に関わる手技 7. 導入時・覚醒時のリスクと対処 8. 麻酔看視項目 9. 麻酔あるいは鎮静処置に伴う疼痛管理 演習問題 | | 4 |
| 術中管理・術後管理 1. 術中動物看護の役割と必要な動物看護援助 | | 4 |

| | |
|--|---------|
| 2. 術直後動物看護の役割と必要な動物看護援助 3. 術後動物看護の役割と必要な動物看護援助 4. 直接介助動物看護師と間接介助動物看護師 5. 直接介助動物看護師の業務 6. 間接介助動物看護師の業務 | |
| 縫合材料と縫合法 1. 縫合系の分類 2. 縫合系の特徴 3. 縫合系のサイズ 4. 一般的な縫合系の種類と特徴 5. 縫合系の包装 6. 縫合系の代替品 7. 縫合系の選択基準 8. 縫合針 9. 一般的な縫合法 | 4 |
| 外科器具 1. 一般的な手術器具と使用法 2. 一般的な手術器具セット 3. 整形外科器具とその使用法 4. 手術器具の手入れ方法とその維持管理 5. 滅菌準備 6. 手術器具の滅菌 7. 代表的な医療機器 演習問題 | 4 |
| 創傷管理と包帯法 1. 創傷の分類 2. 手術後の創傷管理 3. ドレッシング法実施時の創傷管理 4. 包帯法 5. 褥瘡の予防 | 4 |
| 救命救急法 1. 生命徴候のアセスメント 2. 動物の呼吸を楽にする姿勢 3. 循環管理 4. 保温 5. 止血法 6. 気管内挿管 7. 心肺蘇生法 8. その他の救命救急処置に関わる状態 演習問題 | 4 |
| 動物の機能回復 1. 基本的な活動性と動作能力 2. 活動・運動能力に対するアセスメント 3. 活動・運動能力に対する援助方法 4. 対象動物の体位変換 5. リハビリテーションと理学療法 演習問題 | 4 |
| | 合計 36 |
| | 授業単位数 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|---|------------|
| 科目名 | 動物外科看護実習 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 48コマ | 3単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 | |
| 授業の到達目標 | 習得した知識の実践力を身につける | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、実習評価を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物看護実習テキスト | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | |
| | | コマ数 |
| 手術準備（動物・手術器具） | | 12 |
| 術中補助（麻酔監視・モニタリング・機器の受渡し・无影灯・保温マット・歯科処置） | | 12 |
| 術後管理（創傷管理・包帯法・抜糸） | | 12 |
| 救急救命（EMG対応・気管内挿管補助・心肺蘇生） | | 12 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 48 |
| | 授業単位数 | 3 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|---|-------|
| 科目名 | 動物看護総合実習Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 各実習施設先の獣医師、動物看護師、飼育作業員等 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 60コマ | ・ 4単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。 | |
| 授業の到達目標 | 業務体験を通し専門職業人意識を高める。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習評価、実習簿の提出および出席率等により総合的に評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | インターンシップ実習 | 60 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 60 |
| | 授業単位数 | 4 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|--|-------|
| 科目名 | 動物内科看護学実習ⅡA | |
| 担当教員の実務経験 | 獣医師、動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 20コマ | ・ 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 校有動物の健康管理を行う。動物に病気が発生した際には、獣医師および動物看護師の指導のもと実際の看護を行う。看護計画・看護記録・看護評価の作成を行う。 | |
| 授業の到達目標 | 内科看護学および内科看護学実習ⅠAで修得した知識の実践力を身につける。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習評価、実習簿の提出および出席率等により総合的に評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 全体実施時間外にも看護が必要となる場合があります。その場合に個別にカウントを行います。1コマ（90分）を3分割し実施する場合があります。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 自己判断せず指導者に指示を仰いでください。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 健康管理（全身状態の把握）、看護ケア、看護過程 | 20 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 20 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|--|-------|
| 科目名 | 動物内科看護学実習ⅡB | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 20コマ | ・ 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 罹患動物、シニア犬などに対しメディカルトリミングを行う。 | |
| 授業の到達目標 | 内科看護学および内科看護学実習ⅠBで修得した知識の実践力を身につける。 メディカルトリミングによりQOLの追及ができる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習評価、実習簿の提出および出席率等により総合的に評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 全体実施時間外にも看護が必要となる場合があります。その場合に個別にカウントを行います。1コマ（90分）を3分割し実施する場合があります。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 自己判断せず指導者に指示を仰いでください。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| メディカルトリミング実習 | | 20 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 20 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------------------|--|-----|
| 科目名 | 動物繁殖学 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師、ブリーダー | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 17コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得。 | |
| 授業の到達目標 | 動物の体の構造と機能を理解する | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物基礎看護学① | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 生殖とその分類、生殖器の基本的なしくみ | | 2 |
| 生殖機能調節に関わるホルモン、発情徴候と発情周期 | | 2 |
| 受精と妊娠 | | 2 |
| 分娩と助産 | | 2 |
| 遺伝子と器官発生 | | 2 |
| 遺伝性疾患 | | 2 |
| 新生子の特性（解剖学的特徴、生理的機能） | | 2 |
| 新生子管理 | | 2 |
| 演習問題 | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 17 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--|--|-----|
| 科目名 | 動物病理学 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 18コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び病態について理解する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物基礎看護学②、動物の疾病と予防および回復 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 病理学の方法論、病理検査技術 | | 2 |
| 生体反応と疾病の機序（生体恒常性維持機構、疾病を起こす原因） | | 2 |
| 細胞や組織に生じる変化：退行性病変（変性、萎縮、壊死・アポトーシス） | | 2 |
| 細胞や組織に生じる変化：進行性病変（増殖と修復） | | 2 |
| 循環障害（血液の循環障害、組織液の循環障害、ショック） | | 2 |
| 炎 症（定義、原因、形態的变化、分類、急性・慢性） | | 2 |
| 免疫異常（免疫反応、免疫異常による疾患、移植における免疫反応） | | 2 |
| 腫瘍（定義、形態学的特徴、分類と命名、増殖、宿主への影響、腫瘍免疫、原因、発生メカニズム、種類） | | 2 |
| 先天異常（※動物繁殖学「遺伝性疾患」と一部共有） | | 1 |
| 演習問題 | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 18 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|--|-----|
| 科目名 | 動物薬理学 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 30コマ | 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物基礎看護学②、動物の疾病と予防および回復 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 薬理学概論、医薬品の基準と分類、医薬品の開発 | | 1 |
| 薬理作用の発現機構、薬の剤形と投与方法 | | 1 |
| 生体内での薬の動態（吸収、分布、代謝、排泄） | | 2 |
| 薬効に影響を与える因子、薬の有害作用 | | 2 |
| 神経系に作用する薬（麻酔薬、鎮痛薬、骨格筋弛緩薬、鎮静剤・抗痙攣薬、問題行動の治療薬） | | 2 |
| 呼吸器系に作用する（呼吸興奮薬、鎮咳薬、抗喘息薬（気管支拡張薬）） | | 2 |
| 循環器・泌尿器に作用する薬（血管拡張薬（降圧薬）、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、抗利尿薬） | | 2 |
| 消化器に作用する薬（制吐薬と催吐薬、抗潰瘍薬、消化管運動促進（調整）薬および抑制薬（鎮痙薬）、止瀉薬、瀉下薬） | | 2 |
| オータコイド、内分泌・代謝系の薬（オータコイド、抗炎症薬、糖尿病治療薬、甲状腺機能障害の治療薬、脂質代謝異常の治療薬、骨代謝異常の治療薬） | | 2 |
| 血液に作用する薬（貧血の発生機序と抗貧血薬、血液凝固阻害薬、血液凝固促進薬（止血薬） | | 2 |
| 免疫系に作用する薬（免疫に影響を与える薬、ワクチン） | | 4 |
| 化学療法薬（抗腫瘍薬、抗菌薬・抗真菌薬、駆虫薬・抗原虫薬、殺虫薬、消毒薬） | | 2 |
| 薬量計算、調剤演習 | | 4 |
| 演習問題 | | 2 |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 30 |
| 授業単位数 | | 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|--|-----|
| 科目名 | 動物臨床栄養学Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 16コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。 | |
| 授業の到達目標 | 動物病院業務に必要な知識を修得する | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学②、動物栄養学 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 尿路結石症／猫下部尿路疾患 ①猫下部尿路疾患の原因と症状 ②尿路結石症の食事管理 ③尿路結石症の食事の与え方 | | 1 |
| 心臓病 ①心臓病の原因 ②代表的な心臓病 ③慢性心不全の食事管理 ④心臓病の食事の与え方 | | 1 |
| 消化器病 ①消化器病の原因 ②口腔・食道・胃の消化の仕組みと各疾患の食事管理 ③小腸の消化・吸収の仕組み ④小腸の疾患とその食事管理 ⑤膵臓の疾患とその食事管理 ⑥大腸の吸収の仕組み ⑦大腸の疾患とその食事管理 | | 1 |
| 腎臓病 ① 臓の構造と機能 ②腎臓の疾患 ③慢性腎臓病の食事の与え方 | | 1 |
| 肝臓病 ①肝臓の機能 ②肝臓病の原因と症状 ③肝機能障害と体への影響 ④肝臓病の栄養管理 ⑤肝臓病とその食事管理 | | 1 |
| 口腔疾患 ① 周病の原因と症状 ②歯周病の進行 ③食物と歯 | | 1 |
| 糖尿病 ① 尿病の仕組みと症状 ②糖尿病の食事管理 | | 1 |
| 食物アレルギー ①食物アレルギーの原因と症状 ②食物アレルギーの仕組み ③食物アレルギーの食事管理 | | 1 |
| 関節炎 | | 1 |

| | |
|---|---------|
| ① 節炎の仕組み ②関節炎の原因と症状 ③関節炎の食事管理 | |
| がん ①がんの原因と症状 ②代謝の変化 ③がんの栄養管理 ④がんの食事の与え方 | 1 |
| 脳に加齢と認知障害 ① の加齢と疾患 ②認知機能の低下 | 1 |
| 肥満 ① 満の原因と判定 ②肥満が健康に及ぼす影響 ③肥満の食事管理 | 1 |
| 甲状腺機能亢進症 ① 甲状腺機能亢進症の仕組みと症状 ②甲状腺機能亢進症の食事管理 | 1 |
| ペットフード市場 嗜好性 ①嗜好性の要因 ②嗜好性を高める ③食物の変更 ペットフードの管理 ペットフードに関する規則※動物医療関連法規「ペットフード安全法」含む | 1 |
| 特別療法食 | 2 |
| | 合計 16 |
| | 授業単位数 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--|--|-----|
| 科目名 | 動物臨床看護学Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 獣医師、動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 66コマ | 4単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を修得 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学③ | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 呼吸器疾患の動物看護 1. 呼吸器疾患とは 2. 呼吸器疾患の発生部位 3. 呼吸器疾患における病理学的変化 4. 診察と検査 5. 呼吸器疾患に対する治療 6. 代表的な呼吸器疾患 7. 呼吸機能障害に対する動物看護 演習問題 | 5 | |
| 循環器疾患の動物看護 1. 循環器疾患とは 2. 循環器疾患における病理学的変化 3. 診察と検査 4. 循環器疾患に対する治療 5. 代表的な循環器疾患 6. 循環機能障害に対する動物看護 演習問題 | 5 | |
| 消化器疾患の動物看護 1. 消化器疾患とは 2. 消化器疾患による症状 3. 診察と診断の流れ 4. 消化器疾患に対する治療 5. 代表的な消化器疾患 6. 消化機能障害に対する動物看護 演習問題 | 5 | |

| | |
|--|---|
| <p>内分泌疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌疾患とは 2. 膵臓における代表的な内分泌疾患 3. 甲状腺における代表的な内分泌疾患 4. 副腎における代表的な内分泌疾患 5. 上皮小体における代表的な内分泌疾患 6. 内分泌疾患に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患とは 2. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の概要 3. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の病理学的変化 4. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の検査と治療 5. 代表的な感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患 6. 生体防御機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>感覚器疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器疾患とは 2. 感覚器の異常の有無をみる 3. 各感覚器疾患の動物看護援助の概要 4. 代表的な感覚器疾患 5. 感覚機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>神経・整形外科疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経疾患とは 2. 神経疾患による症状 3. 神経疾患の診察と診断の流れ 4. 神経疾患に対する治療 5. 整形外科疾患とは 6. 整形外科疾患による症状 7. 整形外科疾患の診察と診断の流れ 8. 整形外科疾患に対する治療 9. 代表的な神経疾患 10. 代表的な整形外科疾患 11. 神経・運動機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>排泄機能障害を伴う疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄機能障害を伴う疾患とは 2. 排泄機能障害による症状とその病態生理 3. 排泄機能障害を伴う疾患の診断 4. 排泄機能障害を伴う疾患の治療 5. 排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患 6. 排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患 7. 排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患 8. 排泄機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>生殖器疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器疾患とは 2. 雌における生殖器疾患 3. 雄における生殖器疾患 4. 生殖器疾患の診察と診断 5. 生殖器疾患に対する治療 6. 代表的な生殖器疾患 7. 繁殖機能障害に対する動物看護 | 5 |

| | |
|--|---------|
| 演習問題 | |
| 腫瘍疾患の動物看護 1. 腫瘍疾患とは 2. がんの診断に関する基礎知識 3. がんの診断のための検査 4. 腫瘍疾患に対する治療 5. がん化学療法 6. 腫瘍疾患の栄養管理 7. がん性疼痛 8. 担がん動物への動物看護 演習問題 | 5 |
| 救急疾患の動物看護 1. 救急疾患とは 2. 救急疾患に関する基礎知識 3. 代表的な救急疾患 4. 緊急時の動物看護 演習問題 | 5 |
| 事例に基づく動物看護過程の展開 1. 右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護 2. 前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護 3. 糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護 演習問題 | 5 |
| 確認テスト(各項目) | 6 |
| | 合計 66 |
| | 授業単位数 4 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|---|-------|
| 科目名 | 動物臨床看護実習 | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 35コマ | ・ 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 | |
| 授業の到達目標 | 修得した知識の実践力を身につける | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物看護実習テキスト | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 看護過程の実践 1. 事例を通して動物看護アプローチの個別性を理解 2. 実習時に見学遭遇した事例で動物看護過程を展開 3. 動物生活環境が健康に及ぼす影響 4. 症状や入院・治療が動物と家族に及ぼす影響 5. 看護動物への関りの内容・方法を立案 6. 看護計画を作成 7. 看護記録を作成 | | 20 |
| 入院及び栄養管理 1. 入院動物の管理、アセスメント 2. ケージの清掃、管理 3. ペインスケール 4. 栄養チューブ設置の準備や流動食の調整 5. 褥瘡看護 | | 15 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 35 |
| 授業単位数 | | 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|--|-------|
| 科目名 | 動物臨床検査学実習Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 獣医師 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 動物看護コース 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 30コマ | ・ 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学および動物臨床検査学実習Ⅰで学んだ知識・技術について反復トレーニングを行う。 | |
| 授業の到達目標 | 検体、生体、機器を正確に効率よく扱うことができる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物看護実習テキスト | |
| 授業上の注意点 | 実習内で手技を解説し実践しますが、反復練習を行い技術をより確実なものとする努力をしましょう。スピーディーな作業も、救える命に直結しています。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 血液検査 | | 3 |
| 尿検査 | | 3 |
| 糞便検査 | | 3 |
| 細胞診 | | 3 |
| 微生物学的検査 | | 3 |
| X線検査 | | 3 |
| 超音波検査 | | 3 |
| 心電図検査 | | 3 |
| その他の検査 | | 3 |
| 実技テスト | | 3 |
| | 合計 | 30 |
| | 授業単位数 | 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 特別講習（救急救命講習、災害、コミュニケーション） |
| 担当教員の実務経験 | <p>（特別講師 サニー カミヤ） 防災・救急救命経歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスキュー隊歴12年 福岡市消防局 ・国際救助隊歴6年@福岡市消防局 ・救急隊歴4年@福岡市消防局 ・EMT-D（救急隊員）2年@ニューヨーク州ウェスチェスター郡 ・内閣総理大臣表彰：韓国貨物船沈没事故乗組員4名救出 ・福岡市長表彰、福岡市消防局長表彰：人命救助表彰多数 ・ライフセーバー：オーストラリアライフセイビング協会 ・福岡ライフセイビング協会設立 ・国際消防&防災ジャーナリスト ・海外消防研修コーディネーター&通訳&翻訳 ・海外消防&防災用品仕入れコンサルタント ・防災コンサルタント&アドバイザー ・減災教育訓練指導員 ・災害危機管理アドバイザー ・危険予知トレーニングインストラクター ・各種防災ワークショップ、セミナー講師 <p>詳しいプロフィールはホームページに掲載 (https://petsaver.jp/rep/)</p> <p>（特別講師 山口 巖） 有限会社ワンクスクリエーション 勤務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペット業界を理解してもらう為の『ワンポイントセミナー』 ・スタッフ同士のチーム力を上げる『スタッフ育成セミナー』 ・『仕事のやりがいアップ』『スキンケアセミナー』 <p>などを、全国のペットショップ、動物病院や専門学校で開講。</p> |
| 対象学生 | ペットビジネス科 1・2年生 |
| 授業時間数・単位数 | 19コマ ・ 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] |
| 授業の概要 | <p>（救命講習、災害救助講習） 元国際レスキュー隊員でアメリカのペットの救急法指導団体、Pet Techにて「ペットの救急法」のインストラクター、ミネソタのBART「消防士向けアニマルレスキュー」を取得したサニー カミヤが、ペットの飼い主の方から、ペットシッター、ペットホテル、ペットカフェ、ペットトリマー、ペットマッサージ、ペットトレーナー、ペット介護士、ペットの里親活動関係者などのペット事業関係者の方々を対象に開講。「いざというとき助かる命を助きたい！」「ケガをしたペットの応急処置法を知りたい」のために「ペットの救急法（心肺蘇生法、止血法、異物除去法など）」および「災害時におけるペットの倒壊家屋、生き埋め、壁に挟まった状態、川に流されたペットの救助法、マンホール等からの救助法、災害時に使えるロープの結び方各種」などを学ぶ。</p> <p>（ペット防災・災害対策） ペット同行・同伴避難についての理解を深め、実際に避難所開設・支援について実習形式で学ぶ。</p> <p>（コミュニケーション講座） コミュニケーション技法を学ぶ。</p> |
| 授業の到達目標 | <p>ペットセーバーベーシック&アドヴァンス講習 修了認定 ペットセーバーERT（Emergency Rescue Technician 救急救助員）修了認定</p> |
| 成績評価方法と基準 | <p>成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。</p> |

| 準備学習・時間外学習 | | |
|---|----------------------------------|-----|
| 使用教科書・教材・参考書 | 資料配布 | |
| 授業上の注意点 | 感染症拡大防止の観点より、授業内容に変更が生じる場合があります。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| ペットセーバーベーシック&アドヴァンス講習（救命講習） 日常生活におけるペットの救急法、ペットの事故防止、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など | | 3 |
| ペットセーバーERT（Emergency Rescue Technician 救急救助員）（災害救助講習） ペットの倒壊家屋、生き埋め、壁に挟まった状態、川に流されたペットの救助法、マンホール等からの救助法、災害時に使えるロープの結び方各種 | | 3 |
| ペット防災・災害対策（避難所開設・支援訓練、ペット防災基礎講習） | | 5 |
| 復習課題（レポート、展示物の作成） | | 3 |
| コミュニケーション力講習 | | 3 |
| 復習課題（レポート） | | 2 |
| | 合計 | 19 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|---|--|-----|
| 科目名 | 動物臨床栄養学Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 16コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。 | |
| 授業の到達目標 | 動物病院業務に必要な知識を修得する | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学②、動物栄養学 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 尿路結石症／猫下部尿路疾患 ①猫下部尿路疾患の原因と症状 ②尿路結石症の食事管理 ③尿路結石症の食事の与え方 | | 1 |
| 心臓病 ①心臓病の原因 ②代表的な心臓病 ③慢性心不全の食事管理 ④心臓病の食事の与え方 | | 1 |
| 消化器病 ①消化器病の原因 ②口腔・食道・胃の消化の仕組みと各疾患の食事管理 ③小腸の消化・吸収の仕組み ④小腸の疾患とその食事管理 ⑤膵臓の疾患とその食事管理 ⑥大腸の吸収の仕組み ⑦大腸の疾患とその食事管理 | | 1 |
| 腎臓病 ② 臓の構造と機能 ②腎臓の疾患 ③慢性腎臓病の食事の与え方 | | 1 |
| 肝臓病 ①肝臓の機能 ②肝臓病の原因と症状 ③肝機能障害と体への影響 ④肝臓病の栄養管理 ⑤肝臓病とその食事管理 | | 1 |
| 口腔疾患 ② 周病の原因と症状 ②歯周病の進行 ③食物と歯 | | 1 |
| 糖尿病 ② 尿病の仕組みと症状 ②糖尿病の食事管理 | | 1 |
| 食物アレルギー ①食物アレルギーの原因と症状 ②食物アレルギーの仕組み ③食物アレルギーの食事管理 | | 1 |
| 関節炎 | | 1 |

| | |
|---|---------|
| ② 節炎の仕組み ②関節炎の原因と症状 ③関節炎の食事管理 | |
| がん ①がんの原因と症状 ②代謝の変化 ③がんの栄養管理 ④がんの食事の与え方 | 1 |
| 脳に加齢と認知障害 ② の加齢と疾患 ②認知機能の低下 | 1 |
| 肥満 ② 満の原因と判定 ②肥満が健康に及ぼす影響 ③肥満の食事管理 | 1 |
| 甲状腺機能亢進症 ② 甲状腺機能亢進症の仕組みと症状 ②甲状腺機能亢進症の食事管理 | 1 |
| ペットフード市場 嗜好性 ①嗜好性の要因 ②嗜好性を高める ③食物の変更 ペットフードの管理 ペットフードに関する規則※動物医療関連法規「ペットフード安全法」含む | 1 |
| 特別療法食 | 2 |
| | 合計 16 |
| | 授業単位数 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--|--|-----|
| 科目名 | 動物臨床看護学Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | 獣医師、動物看護師 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科動物看護コース2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 66コマ | 4単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を修得 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 臨床動物看護学③ | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 呼吸器疾患の動物看護 1. 呼吸器疾患とは 2. 呼吸器疾患の発生部位 3. 呼吸器疾患における病理学的変化 4. 診察と検査 5. 呼吸器疾患に対する治療 6. 代表的な呼吸器疾患 7. 呼吸機能障害に対する動物看護 演習問題 | | 5 |
| 循環器疾患の動物看護 1. 循環器疾患とは 2. 循環器疾患における病理学的変化 3. 診察と検査 4. 循環器疾患に対する治療 5. 代表的な循環器疾患 6. 循環機能障害に対する動物看護 演習問題 | | 5 |
| 消化器疾患の動物看護 1. 消化器疾患とは 2. 消化器疾患による症状 3. 診察と診断の流れ 4. 消化器疾患に対する治療 5. 代表的な消化器疾患 6. 消化機能障害に対する動物看護 演習問題 | | 5 |

| | |
|--|---|
| <p>内分泌疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌疾患とは 2. 膵臓における代表的な内分泌疾患 3. 甲状腺における代表的な内分泌疾患 4. 副腎における代表的な内分泌疾患 5. 上皮小体における代表的な内分泌疾患 6. 内分泌疾患に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患とは 2. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の概要 3. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の病理学的変化 4. 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患の検査と治療 5. 代表的な感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患 6. 生体防御機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>感覚器疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器疾患とは 2. 感覚器の異常の有無をみる 3. 各感覚器疾患の動物看護援助の概要 4. 代表的な感覚器疾患 5. 感覚機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>神経・整形外科疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経疾患とは 2. 神経疾患による症状 3. 神経疾患の診察と診断の流れ 4. 神経疾患に対する治療 5. 整形外科疾患とは 6. 整形外科疾患による症状 7. 整形外科疾患の診察と診断の流れ 8. 整形外科疾患に対する治療 9. 代表的な神経疾患 10. 代表的な整形外科疾患 11. 神経・運動機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>排泄機能障害を伴う疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄機能障害を伴う疾患とは 2. 排泄機能障害による症状とその病態生理 3. 排泄機能障害を伴う疾患の診断 4. 排泄機能障害を伴う疾患の治療 5. 排尿の異常を引き起こす代表的な症候・疾患 6. 排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患 7. 排尿の異常と排便困難を起こす可能性がある疾患 8. 排泄機能障害に対する動物看護 <p>演習問題</p> | 5 |
| <p>生殖器疾患の動物看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器疾患とは 2. 雌における生殖器疾患 3. 雄における生殖器疾患 4. 生殖器疾患の診察と診断 5. 生殖器疾患に対する治療 6. 代表的な生殖器疾患 7. 繁殖機能障害に対する動物看護 | 5 |

| | |
|--|---------|
| 演習問題 | |
| 腫瘍疾患の動物看護 1. 腫瘍疾患とは 2. がんの診断に関する基礎知識 3. がんの診断のための検査 4. 腫瘍疾患に対する治療 5. がん化学療法 6. 腫瘍疾患の栄養管理 7. がん性疼痛 8. 担がん動物への動物看護 演習問題 | 5 |
| 救急疾患の動物看護 1. 救急疾患とは 2. 救急疾患に関する基礎知識 3. 代表的な救急疾患 4. 緊急時の動物看護 演習問題 | 5 |
| 事例に基づく動物看護過程の展開 1. 右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護 2. 前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護 3. 糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護 演習問題 | 5 |
| 確認テスト(各項目) | 6 |
| | 合計 66 |
| | 授業単位数 4 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|--------------|---|------|
| 科目名 | ドッググッズ製作 | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 愛犬と飼い主さんが喜んでくれるよう、心を込めて身の回りで使用するグッズを制作する。 | |
| 授業の到達目標 | 安全安心なグッズにオリジナリティを加えて制作できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 各課題評価80%、授業態度出欠席20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | コマ数 | |
| | フェルトボール作り方説明と師範 | 1 |
| 実習 | リボンA制作 | 2 |
| | 革コードとビーズを使用したネックレスの作り方説明と師範 | 1 |
| 実習 | 革コードとビーズを使用したネックレス | 2 |
| | 革コードとビーズを使用した飼い主用ブレスレットの作り方説明と師範 | 1 |
| 実習 | 革コードとビーズを使用した飼い主用ブレスレット | 2 |
| | アウトドアコードを使用したリードの作り方説明と師範 | 1 |
| 実習 | アウトドアコードを使用したリード | 2 |
| | アウトドアコードを使用した首輪の作り方説明と師範 | 1 |
| 実習 | アウトドアコードを使用した首輪 | 1 |
| 実習 | アウトドアコードを使用したキーホルダー作り | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|----------------------------------|---|--------|
| 科目名 | 校外研修Ⅱ | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 30 コマ | ・ 2 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 動物関連施設およびイベントの見学を行う。 | |
| 授業の到達目標 | 業界への理解を深め、視野を広げる。 就職活動のチャンスとする。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（レポート）、出席率、提出物ならびに研修態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 研修内容については、今年度のあらゆる状況や業界動向等を考慮し決定します。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 国内研修①全校研修 | | 5 |
| 研修オリエンテーション、グループ分け、訪問企業の決定、しおり作成 | | 3 |
| 国内研修②ペット分野に対する理解を深める研修 | | 20 |
| レポート提出 | | 2 |
| 合計 | | 30 |
| 授業単位数 | | 2 |

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

| | | |
|----------------|--|-------|
| 科目名 | 就職実務Ⅱ | |
| 対象学生 | ペットビジネス科 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | ・ 1単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 就職活動に必要な書類の準備、書き方の指導を行う。 インターンシップのアポイント、面接の指導を行う。 | |
| 授業の到達目標 | 希望就職先の内定 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 志望動機等の添削指導は一度では終わらない場合があります。各自授業時間外にも考えて修正する努力をしてください。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 動物系専門学校生・トリミングスクール生のための コミュニケーション・マナー&キャリア・ガイダンス（インターズー） | |
| 授業上の注意点 | 提出書類の期日に注意を払うこと。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 就職活動の進め方 | | 1 |
| 志望動機 | | 3 |
| 履歴書の書き方 | | 3 |
| 企業研究 | | 2 |
| インターンシップについて | | 1 |
| インターンシップノートの準備 | | 2 |
| アポイントの取り方 | | 1 |
| 面接指導 | | 2 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |